

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、東京都の小池百合子知事が呼び掛けた4月25日から5月6日までの12日間の「ステイホーム

(家にいよう)週間」が終了した。政府による緊急事態宣言後、繁華街での人出は減少したがスーパーや商店街は、知事の「買い物3日に1回」に減らす呼び掛けや、買い物かごの削減による入店抑制、高齢者や妊婦らが優先して買い物ができる仕組みなどを取り組んでも目標8割の抑制の難しさが浮き彫りになった。国民の自由は、最大限守るべきなのかもしれないが、今回のような困難の問題が生じた時、どの様な整備が必要か考えさせられた。

春の農作業が本格化してきた。外で農作業をしていても、「自宅に居ろ」との声は聞かなくてこない。ハウスでの野菜苗の栽培では無く、農地に直接種を蒔き野菜作りをするには「桜の花が咲いてから種を蒔け」との教えが

今だからこそ、足元の自然に関心を抱こう

ある。この連休中が本番。新型コロナウイルスの感染拡大を受けた政府の入国制限措置の影響で、外国人技能実習生が入国せず、研修施設は休業状態で、多くの農家が作付け量を減らしているとの情報

だ。農作業で楽しませてくれる畦に咲くタンポポ。ふとタンポポの語源が「鼓尊」と知人の元NHK長野放送局の記者の加藤和郎さんから教えていただいた事を思い出す。民俗学



降雪量が少ない中、越冬したニンニク。連作障害や乾燥など課題も多い

ンポン・ポップは恐ろしく鳩の鳴き声で、鼓とは縁が薄い地域だったろうと。鼓の中心を叩くとタンと鋭く縁を叩くとポポと柔らかく響くから「タンポポ」。何気なく観察する野草にも、意味する言葉の語源を考えるには、身近な自然の豊かさが増える。また歌人の俵万智さんが子育てをテーマにした歌とエッセン集「たんぽぽの日々」で、いつもの散歩の情景を切り取って「たんぽぽの綿毛を吹いて見せてやる。いつかおまえも飛んでゆくから」と詠んだ。旅たちの季節

に、親は飛び立った綿毛を見届けられない。だからこそ、子どもと過ごす時間を大切に。新型コロナウイルス対策で自宅にいる家族一緒に過ごす日常が「たんぽぽの日々」を想わせる日々になるように祈るばかりだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)